

## 第 8 章 河道特性

小丸川はその源を宮崎県東臼杵郡椎葉村三方岳（標高 1,479m）に発し、山間部を流下し渡川等を合わせながら木城町の平野部を貫流し、下流域において切原川を合流して日向灘に注ぐ、幹川流路延長 75 km、流域面積 474km<sup>2</sup> の一級河川である。

小丸川の流域は、宮崎県の中央部に位置し、関係市町村数は 2 市 4 町 1 村におよび、下流部の狭い平野部には高鍋町などの主要都市を有している。流域の土地利用は、山地が約 87%、水田畑地等が約 10%、宅地等が約 3%となっている。

流域の地形は、三方岳や清水岳などの日向山地のほぼ中央部を源に尾鈴山と空野山に挟まれた急峻な渓谷が形成され、下流部には狭い沖積平野が広がっている。

河床勾配は、上流部で約 1/100 程度、中流部は約 1/600 程度と急流河川の様相を呈し、狭い平野部である下流部は約 1/2000 程度と比較的緩勾配となっているものの全体的に急流河川の様相を呈している。

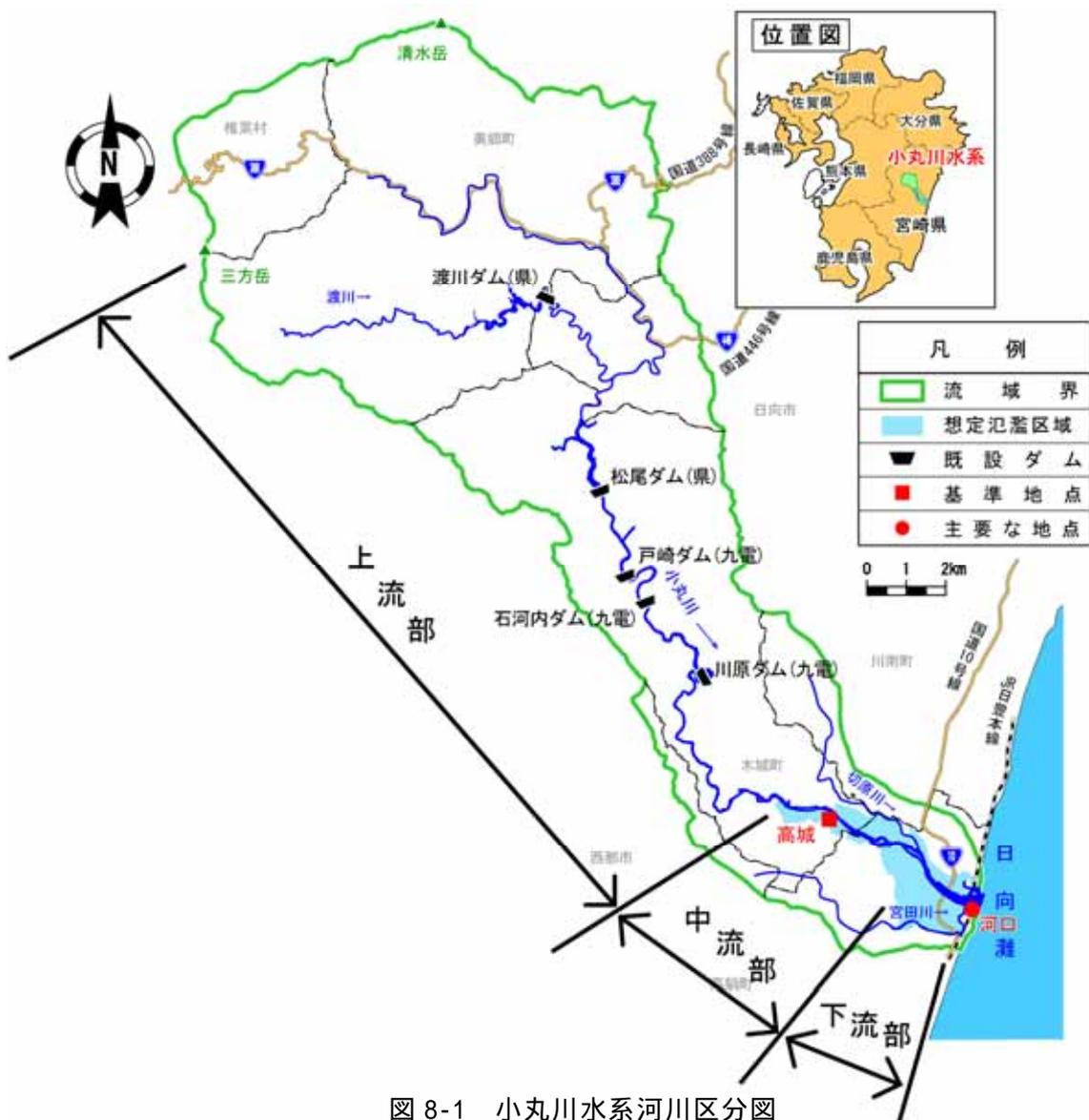


図 8-1 小丸川水系河川区分図

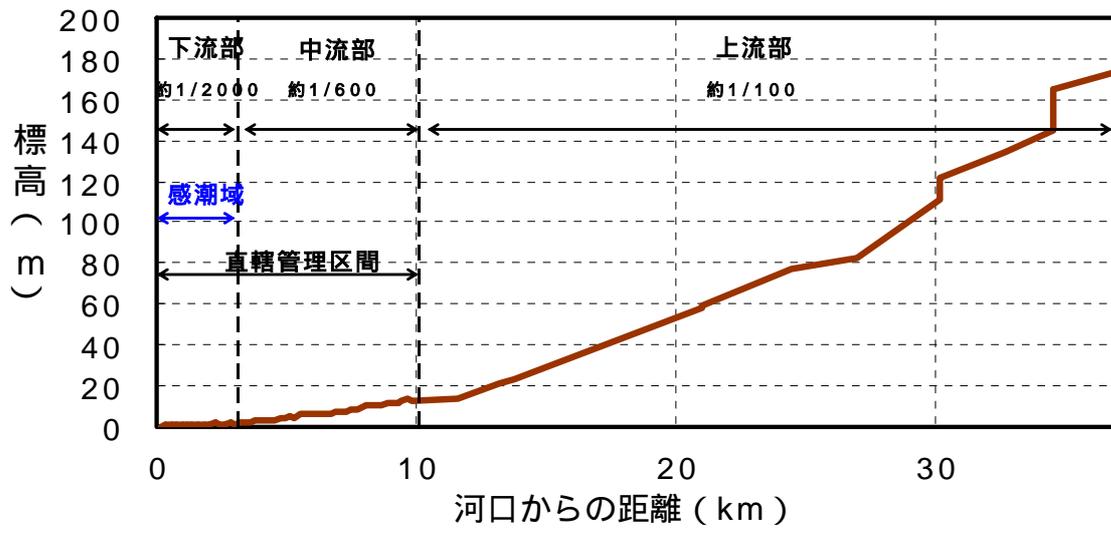


図 8-2 小丸川水系平均河床勾配

### (1) 上流部の河道特性

上流部は、侵食の進んだ急峻な渓谷をなし、河岸は岩盤が露出し、山間狭窄部の中を流下している。流入する支川は又江の原川、水清谷川、渡川、板谷川等と少なく、渡川ダム、松尾ダム、戸崎ダム、石河内ダム、川原ダムの5ダムの建設により湛水域が確保され、主に発電用水として利用されている。



【小丸川上流部（渡川発電所付近）】

小丸川上流部の河川沿いは、山付き区間と小規模な河岸段丘がみられ、河川沿いに小規模な集落が点在している。



【小丸川上流部（松尾ダム付近）】

山間地に建設された松尾ダムを流下し、下流には戸崎ダム、川原ダム、石河内ダムが建設されている。河道は山間溪流の形状を呈している。

(写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所)



渡川ダム



松尾ダム



戸崎ダム



石河内ダム



川原ダム

写真 8-1 小丸川上流域のダム群

(写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所)

## (2) 中流部の河道特性

中流部は、平野部を緩やかに蛇行しながら流下する区間であり、木城町川原ダム下流の比木の瀬周辺から河床勾配は緩やかになり、急に流速が減じて堆積作用が顕著となっている。また、竹鳩橋下流付近にはこれまでの川の流れの変化により生じた河跡湖が左右岸の高水敷に点在している。

河道の川幅は 150m ~ 300m 程度で、河床勾配は約 1/600 程度、河床材料は礫、巨礫により形成されセグメント 2-1 である。



【小丸川中流部（比木橋付近：10.2km）】  
山間地より解放され河岸段丘の趣を呈する。  
扇状地形の中を緩やかに蛇行する河川形状を呈している。



【小丸川中流部（高城橋下流付近：7.6km）】  
河道は大きく広がり、緩やかに流下している。  
広い高水敷は採草地として利用されている。  
(写真：国土交通省 宮崎河川国道事務所)

写真 8-2 小丸川中流部（比木橋付近、高城橋下流付近）

### (3) 下流部の河道特性

下流部は、高鍋町の市街地中央部を流下し、小丸大橋より下流は感潮区間で日向灘(太平洋)に注いでいる。

河道の川幅は400m程度で、河床勾配は約1/2,000で、河床材料は砂、砂礫で構成されセグメント2-1の区間である。河床部には砂礫が堆積し交互砂州の形成と、河口部には河口砂州の形成がみられる。

河川改修により高水敷が両岸に整備され、一部は市民憩いのスポーツ広場として利用されている。



【小丸川下流部(河口付近:0.0km)】  
小丸川下流部は、高鍋平野の水田地帯と左岸市街地部の間を緩やかに流下している。  
河口部は、太平洋に注いでいる。

(写真：国土交通省  
宮崎河川国道事務所)

写真 8-3 小丸川下流部(河口付近)



写真 8-4 高鍋大橋より小丸川下流を望む



写真 8-5 宮田川より小丸川河口を望む

(写真：国土交通省宮崎河川国道事務所)